

中学校英語において生徒が意欲的に言語活動に取り組む指導の工夫

— 「気付き」「計画・立案」「振り返り」の段階を通して —

外国語班 林 秀多 (中学校教諭)

生徒の現状
意欲的な言語活動への取組が見られない。

原因・問題点
自分の課題がわからず、
学習目標がない。

目指す生徒像
目標をもちながら意欲的に
言語活動に取り組んでいる。

START

GOAL

<研究の内容>

○ 「意欲的に言語活動に取り組む」とは

生徒が学習について、「できた」・「分かった」と実感できる状態をもって言語活動に取り組むこととする。

○ 課題解決のための手だて

目指す生徒像

振り返りの段階

学習を振り返り、学習の達成や反省をする段階

計画立案の段階

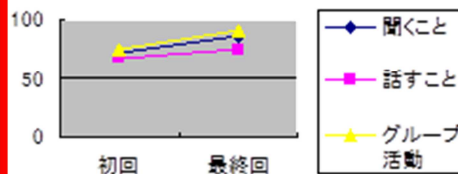
気付きから学習計画を立て、学習する段階

気付きの段階

ルーブリックを活用し、言語活動における自己の課題に気付く段階

<検証結果>

達成率推移(評価基準表より)



生徒による振り返りでは、達成率(%)を初回と最終回で比較すると増加している。生徒に「できた」・「分かった」という実感をもたせることができた。

教科書の本文を全文覚えることができないという課題に
Bのことに書きながら読んだ
結果は すらすらと読めるようになった。

生徒のコメント(評価基準表の記入欄より)

教科書の文が覚えられない→
ノートに書く練習をする → できた!

ルーブリック(Rubric)の評価基準表とは、言語活動における学習の目標や評価内容を示した物であり、生徒はそれを活用することによって学習内容のゴールおよび評価のポイントを知り、自己評価することで自己の課題に気付くことができます

| | | Level 3 |
|--------------------------------|-----------------------------------|---------|
| A | | Level 3 |
| B | | Level 2 |
| C | | Level 1 |
| 場面に応じた声の大きさが 出ている・発音 が正確 | 相手に伝わり やすい発音や 間の取り方 がわかる | 本文を覚える |

Cube1 Cube2
Cube3

全員(100%)の生徒が、左上の図のようにルーブリックの評価基準表に自己評価をマーカーで色を塗りつぶすことで、自己の課題に気付くことができた。

<成果と課題>

- 評価基準表を用いて、生徒に評価項目を示すことで、生徒は学習の目当てを分かりやすく理解することができた。このことからどの項目についても生徒は具体的な目標と具体的な学習課題をもつことができた。
- 生徒それぞれが学習課題について取り組む中、生徒同士が教え合うピアサポート学習の場面が見られた。これにより、生徒がよりたくさんの課題解決に向けてのヒントを得ることができた。
- 自己評価表から、課題を家庭学習と結び付けることができ、家庭学習に具体的な目標を立てられた。
- 生徒の感想から、自己評価表の欄を塗る活動が学習意欲に働きかけ、やる気が出るという記述が見られた。
- 上位の生徒では、自己評価の達成率が大きく上がる生徒が見られたが、下位の生徒の中には、達成率を上げることができない生徒が見られた。
- 言語活動場面毎に、細かく評価基準表を用いて学習する中で、時間的な制約から、十分に時間をかけて生徒に考えさせることができない場面があった。